

# 激変する地球時代を いかに生きるか

—「けいはんな」からの発信—

**入場  
無料**

日時・場所

2017年6月29日(木) 13:00~17:00

受付開始:12:30

〈東京〉  
時事通信ホール

先着: 300名



基調講演 13:10~13:50

テーマ

「日本は世界に何を  
伝えるか」

橋爪 大三郎

社会学者、東京工業大学名誉教授

基幹プログラム報告・総合討論 14:00~16:55

テーマ 21世紀地球社会における科学技術のあり方

有本 建男 | 国際高等研究所副所長

テーマ 人類生存の持続可能性を探求する

佐和 隆光 | 国際高等研究所研究参与

テーマ 多様性世界の平和的共生の方策

位田 隆一 | 国際高等研究所副所長

テーマ 30年先の地域社会の姿を求めて

—けいはんな学研都市を例にして—

松本 紘 | 国際高等研究所副所長

総合討論 コメンテーター 広井 良典 | 京都大学こころの未来研究センター教授

モデレーター 長尾 真 | 国際高等研究所所長

シンポジウムへのお申し込み

参加のお申し込みは国際高等研究所Webサイト  
<http://www.iias.or.jp/>で受け付けております。





## 開催趣旨

国際高等研究所は、1984年に「何を研究すべきかを研究する」研究所として、けいはんな学研都市に創設されました。21世紀の世界における課題について集中的に議論を重ねた結果、とくに深刻な4つの課題について基幹プログラムとして研究を進めてきました。本シンポジウムでは、これらの研究をもとに皆さまと共に人類や地球の未来について考えます。

## プログラム

13:00~13:10 開会挨拶



長尾 真  
国際高等研究所所長

京都大学第23代総長、情報通信研究機構理事長、国立国会図書館長などを歴任。専門は自然言語処理・画像処理・パターン認識。機械翻訳国際連盟・言語処理学会を設立。レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、日本国際賞を受章。文化功労者。

13:10~13:50 基調講演

### 基調講演要旨

#### テーマ 「日本は世界に何を伝えるか」

日本のユニークな点。それは、相対的に孤立した環境のなかで独自の文化を築きあげ、非西欧圏にありながらいち早く近代化を成し遂げたこと。世界史のなかで、めずらしい成功例だ。この秘密はなにか。この経験から、なにを学べるか。日本人は、日本独自の伝統と経験について、世界に語る用意がなかった。独自の文化と経験を、普遍的な言葉で語ったときに、世界の人びとはそこから多くを学ぶ。この試みは、西欧だけが近代であるかのように無意識に考えてきた世界の知性にとっても、自己をゆるがすチャレンジである。多様な世界が多様なまま、調和と平和を実現するために、日本は何を語ればいいのか共に考えたい。



橋爪 大三郎  
社会学者、  
東京工業大学名誉教授

執筆活動を経て、東京工業大学教授(～2013)。専門は、理論社会学、比較宗教論など。著書に『げんきな日本論』、『戦争の社会学』、『ふしぎなキリスト教』、『面白くて眠れなくなる社会学』、『世界がわかる宗教社会学入門』、『はじめての構造主義』など。

<ブレイク>

14:00~16:55 基幹プログラム報告・総合討論

### 基幹プログラムの概要

数百年にわたり築かれてきた近代科学技術の方法、その思想的枠組みと制度体制が大きな転換期を迎えているのではないのでしょうか。21世紀の科学技術とは何か、学問とは何か、大学とは何かという根本的問題を問い直し、有限資源の地球、深刻な環境汚染、地球温暖化、人間と機械の境界の曖昧さといった人類が直面している問題に対して、科学技術活動をどのようにすべきか。日本の経験と特徴を生かして、具体的な方策を考え実践を目指します。

14:00~14:25 テーマ 21世紀地球社会における科学技術のあり方



有本 建男  
国際高等研究所副所長

政策研究大学院大学教授、科学技術振興機構首席フェロー。文部科学省科学技術・学術政策局長などを歴任。専門は科学技術政策。OECD科学的助言国際プロジェクト共同議長。著書に『高度情報化社会のガバナンス』、『科学的助言：21世紀の科学技術と政策形成』など。

14:25~14:50 テーマ 人類生存の持続可能性を探求する



佐和 隆光  
国際高等研究所研究参与

滋賀大学特別招聘教授、京都大学名誉教授。滋賀大学前学長、国立情報学研究所副所長、京都大学経済研究所所長などを歴任。専門は計量経済学、エネルギー・環境経済学。著書に『グリーン資本主義』、『資本主義は何処へ行く』、『経済学のすすめ』など。

1980年代から2008年の国際金融危機に至るまで市場万能主義が席卷を極め、社会主義の崩壊を受けてグローバリゼーションが進展しました。と同時に気候変動を緩和するべく、人為起源の二酸化炭素排出量削減の方途が模索されてきました。また、この間、情報通信技術の革新が目覚ましく、人工知能が人間の知的労働を代替する時代の到来が予想されています。ところが、ここ一兩年のうちに、反グローバリズム、反民主主義のうねりが押し寄せ、世界は大きく揺らいでいます。こうした激変の下、脅かされる人類生存の持続可能性を担保するために、あるべき科学技術と社会システム改編の方策を考えます。

14:50~15:15 テーマ 多様性世界の平和的共生の方策



位田 隆一  
国際高等研究所副所長

滋賀大学学長、京都大学名誉教授。ユネスコ国際生命倫理委員会委員長、文部科学省研究振興局科学官、同志社大学特別客員教授、京都女子大学客員教授などを歴任。専門は国際法・国際機構、国際生命倫理。フランス共和国教育功労章騎士章を受章。

さまざまな考え方、多様な価値観、倫理観、宗教を持つ人々や社会・国家が平和的に共生するためにはどうしたらよいのでしょうか。共生を阻む要因とそれを克服する方策を考え、平和的共生に至る道をどう描くかを探究しています。そのために、GDPに代わる人間の尊厳や豊かさに基づく未来志向型の指標を提示します。それをもとに、多様性世界の平和的共生に向けて世界的に議論するネットワークの構築を目指します。

15:15~15:40 テーマ 30年先の地域社会の姿を求めて

—けいはんな学研都市を例にして—



松本 紘  
国際高等研究所副所長

理化学研究所理事長、京都大学名誉教授。京都大学前総長、京大大学生存圏研究所所長などを歴任。専門は宇宙プラズマ物理学、宇宙電波科学、宇宙エネルギー工学。レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、名誉大英勲章OBEを受章。

21世紀の地球社会における都市や地域はどうあるべきなのでしょう。国際高等研究所が立地するけいはんな学研都市が未来都市の模範となるために、今後どのような街づくりをしていったらよいのでしょうか。街びらきから30年が経過した今、30年先の地球時代、未来社会の姿を描き、この都市の現状と課題を把握し、けいはんな学研都市に特有の文化や伝統を生かしながら、これからの街づくりに繋がる視点や考え方を提示しています。

<ブレイク>

15:55~16:55 総合討論

モデレーター

長尾 真 | 国際高等研究所所長



コメンテーター  
広井 良典  
京都大学こころの未来  
研究センター教授

厚生省、千葉大学法経学部教授、マサチューセッツ工科大学(MIT) 客員研究員などを歴任。専門は、公共政策・科学哲学。著書に『ポスト資本主義 科学・人間・社会の未来』、『人口減少社会という希望——コミュニティ経済の生成と地球倫理』など。

16:55~17:00 閉会挨拶 長尾 真 | 国際高等研究所所長